

## 【歴史総合】

### ～ClassPad.net の同時編集・授業支援機能を活用する～

近代における近隣諸国との領土画定に関する探究授業

一見単純な歴史上のできごとを視覚的に深掘りし、その後のできごとの理解に応用する。

#### 【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：樺太・千島交換条約を題材に、各領土が交換された背景やメリット、デメリットなどを考えさせ、理解させる。

生徒向けの目標：国際条約を多角的に捉え、さまざまな項目の見方や考え方を養う。

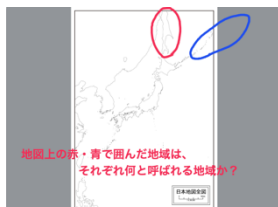
#### 【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **授業準備の時短／効率化**：あらかじめ用意していた図などをファイルふせんを用いて表示することで、資料集や参考書の参照時間が削減され、授業時間を有効に使える。
- ・ **生徒の集中力アップ**：各種ふせんで提示した地図や資料類を生徒自身に読み取らせることに重点を置くため、通常に比べ生徒に与えられる印象が格段に向上。
- ・ **協働学習促進**：生徒への教材提供・生徒自身による情報収集が容易であるため、「考えさせる」ことを重視した授業の構築が可能。

### 授業の流れ

### ClassPad.net での操作

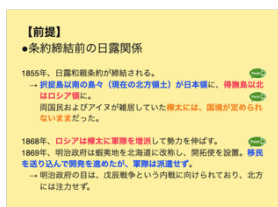
#### step1



#### 概要の説明

樺太と千島の地図を提示しながら、「樺太・千島交換条約」について考えるという授業テーマを伝達する。

#### step2



#### 重要語句の確認

教科書の「樺太・千島交換条約」に深く関連する部分を、重要語句をベースに簡単にまとめた内容を表示する。

テキストふせんと EX-word 機能などを活用して項目を表示する。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能をご利用いただけます。

### step3

**【本題】**  
 ●条約の内容  
 1875年、樺太・千島交換条約が締結される。

樺太千島交換条約 / 樺太千島交換條約  
 別名: 千島樺太交換條約  
 件名: 露西亞國ト千島樺太島交換條約 / 露西亞國ト千島樺太島交換條約 (「島嶼くもろはるかみふらふらうこうりやく」) - 『露西亞書』  
 締結: 1875年 (明治8年) 8月22日  
 場所: サンクトペテルブルク  
 日本側代表: 榎本武揚  
 ロシア側代表: アレクサンドル・ゴルチャコフ  
 批准: 批准書交換: 1875年 (明治8年) 8月22日  
 場所: 東京

### テーマとなる条約の提示

樺太・千島交換条約の説明や条文を表示し、「樺太」と「千島」がそれぞれどこに位置しているのかを再確認するため、併せて地図を表示する。

テキストふせんと EX-word 機能などを活用して、樺太・千島交換条約の簡単な情報を記載した内容を表示する。ファイルふせん機能などを活用し、樺太・千島周辺の地図を表示する。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能をご利用いただけます。

### step4

**【問題】**  
 1875年 日本とロシアの間で、樺太・千島交換条約が締結されたが、……

なぜ、樺太と千島列島は交換されたのか？

→グループワークを通じて、論理的に考察しよう！

次に提示する2点の資料を参考にして、EX-word機能・Web検索なども利用して、新稿作成したデジタルノートにまとめること！

**【資料①】**  
 駐日英公使ハリー・パークスの発言

<1870年 (明治3年)、明治政府とハリー・パークスの談話>

●日本の立場  
 ・樺太を日本の領土として維持すべき  
 ・樺太と北海道を合併し、経済発展を目指す  
 ・樺太の地名を移住させる

●ハリー・パークスの発言  
 「樺太など、古来一般の蛮地も無い土地だ。ロシアにくれてあげばよい。さらに、手にしたコップを太政大臣・三条美実の足元へ投げて、「樺太問題でロシアと揉めたら、日本は、このコップのようになる。」

### 問題提起・グループワーク

これまでの内容を踏まえ、「樺太と千島はなぜ交換されたのか」という問題を記したテキストふせんを表示する。クラスをグループに分け、考えさせる上で必要な資料を各グループに共有する。各グループには、共有した資料だけでなく、EX-word 機能や Web 検索なども利用させ、解答までの論理をきちんと補強するよう指示する。

グループワークにおいては、各グループの代表者に新規のデジタルノートを作らせ、同時編集機能を用いて課題に取り組ませる。教員から配布された資料の他に、各グループで見つけた Web サイトの URL を貼り付けたリンクふせん、EX-word ふせんなどを、デジタルノート上に整理して配置させる。


その際、根拠から解答までが論理的になるよう、スライドショー機能で繋ぐ順番に留意させる。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能をご利用いただけます。

### step5

**【発表】**  
 ●発表する側  
 ・論理に飛躍がないように注意しよう！  
 ・資料がよく見えるように、拡大などを確認しよう！  
 (方法が分からなければ、先生が補助します)

●発表を聴く側  
 ・他のグループの発表から、様々な点を学び取ろう！  
 ・発表後、フィードバックシートを記入し、発表したグループに送信しよう！



### 発表

step 4 で作成したデジタルノートをもとに、各グループに発表してもらおう。聴く側の生徒にはフィードバックシートに感想やアドバイスなどを記入するよう促す。

発表には電子黒板やプロジェクターを利用する。発表後には各グループからデジタルノートの URL を回収し、教員が電子黒板やプロジェクターで映しながら簡単な講評・添削を行う。生徒に書いてもらったフィードバックシートは、授業支援機能を用いて各グループに送信させる。

### step6

**【今後の学習への応用】**

国家による政治的な判断の根拠  
 ①前提: その時点における、国家の状況 (経済、軍事、教育、文化……)  
 ②事例: その判断が自国に与える影響  
 その判断が関係国に与える影響  
 これらによる判断の一致・不一致や、その大小などを結論: ○○○○○○○○○○○○○○

上記のような「三段論法的な構図」ができるようになるよ！

←一つの出来事はケースバイケースで、上記以外の情報が関係する場面ももちろんある。少ない情報で無理に決めることのないように注意しよう！

### 解答例提示・まとめ・宿題

各グループの発表と添削がある程度済んだところで、解答例を提示する。さらに、今回の内容のまとめを通じて、今後の学習内容にどのように応用させることができるのかを明示する。最後に、グループに寄せられたフィードバックシートを読み込み、考察や発表における改善点を記述することを宿題として課す。


解答例や、今後の学習への応用について明示したテキストふせんと、授業支援機能を用いて生徒に共有する。宿題は、次回授業前日までにやはり授業支援機能を用いて回収する。

### step7

**【発展的な内容】**

「樺太」が地理的にはどういった特徴を持つ地域なのか。また、現在もロシア連邦との間に横たわる北方領土問題にどのようなつながりがあるのか。

それらについてわかりやすく解説している動画です。ぜひ試観してみてください！



### 参考・補足

樺太について、地理的な知識を補うとともに、後の北方領土問題にまで広げて解説している動画を提示し、視聴を促す。

YouTube 動画「【ゆっくり解説】樺太という島は、どんなところ？【樺太】」  
 (https://www.youtube.com/watch?v=TY-H61oc4m4) の URL を貼り付けたリンクふせんと、授業支援機能で生徒に送信する。